

鳥獣被害対策を考える

→ 対策は身近なところから→



写真①：サルの食害を受けたダイコン

写真②：イノシシの食害を受けた飼料

写真③：町内で捕獲した野生サル

宮崎県における、農作物などに対する鳥獣からの被害はここ近年増加傾向にあり、最近では、日向市において住民がサルにかみつかれたりする事件も発生しました。

本県は、豊かな自然に恵まれ、またそれらが集落近辺にも多く残されており、人間と鳥獣の距離も、もともと非常に近かつたと言えます。中山間地域等において、少子高齢化などによる集落の人口減や耕作放棄地が増加しました。野生动物が人里近くまで容易に接近できるような環境になつてきただことが、被害增加の一因になつていても考えられます。

宮崎県における、農作物などに対する鳥獣からの被害はここ近年増加傾向にあり、最近では、日向市において住民がサルにかみつかれたりする事件も発生しました。

本県は、豊かな自然に恵まれ、またそれらが集落近辺にも多く残されており、人間と鳥獣の距離も、もともと非常に近かつたと言えます。中山間地域等において、少子高齢化などによる集落の人口減や耕作放棄地が増加しました。野生动物が人里近くまで容易に接近できるような環境になつてきただことが、被害增加の一因になつていても考えられます。

鳥獣被害の増加

新富町においても、鳥獣被害は増加しており、特にイノシシとサルによる被害が目立っています。

本町は台地と平地が入り組んだ独特の地形をしており、山際と人里や田畠が極めて近くなっているため、一度、作物の味を知ると、山際を伝って何度も侵入してくる傾向があり、被害を拡大させる原因になっています。

対症療法的に、駆除する方法もありますが、実際にその場所へ居ついている個体なのか分からぬこともあります。近づけさせないことを目的とした対策をとつていくことも重要です。

新富町の状況



新富町 鳥獣捕獲等申請件数

加害鳥獣名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
カラス	2	7	7	5	5	7
サル	4	3	7	6	6	7
イノシシ	3	5	6	4	5	6
カモ			1			
ドバト			3	4	5	5
シカ				3	2	5
アナグマ						3
トンビ						1
計	9	15	24	22	23	34